



Book Talk

編集・発行 海南高校図書館
第23号 2015.02.26

岩橋が読書を始めたきっかけ

国語科の岩橋です。僕が子供の頃は、休みの日・放課後に外で遊んだりテニスをするが多かった為、そこまで沢山読書をする方ではありませんでした。それでも本を読むことは好きな子供だったと思います。というのも、僕の両親は割と読書家で、寝る前に読書をし、家には読破した多数の本が収納された本棚がいくつもありました。両親のそういう姿を見て育った為、僕も本棚の中から自分で読めそうな本を探して読み、自分が手に入れた本を本棚に入れていくという習慣が身に付いたのだと考えています。



そんな中、母親に勧められて読み、読書に目覚めるきっかけとなったのが湯本香樹実さんの『夏の庭』でした。児童でも読むことが出来る中身ながらその内容はとても深く、人の死や人との繋がり、家族の絆など様々なものが凝縮されている印象を持ったものです。既に読んだことがある人も多いとは思いますが、改めて読んでみるのも面白いと思います。

最近の両親は、お酒を飲んだ後リビングでぐーすか居眠りをする父と、早々に仕事を辞めて毎日遊び呆ける母親という感じで読書家の片鱗はうかがえません。それでも時々自分が読んだ本の話を家族内でしますし、そのおかげで今は国語教師として働くことが出来ている訳ですから、親の影響ってやっぱり凄い。生徒の皆さんも、ご両親に一度本の話振ってみてはどうですか？

体型に合わせた読書スタイルの変化

さて、いきなりですが岩橋は子供の頃今よりも遥かにスマートな体型をしていました。今ではその面影もありませんが、高校の卒業アルバムの写真を見た後、僕の今の姿を見た人には詐欺みたいだとよく言われます…。そしてそんな偏食時代には、不思議と読む本も偏っていたものです。中学時代は鈴木光司さんの『リング』をはじめとしたホラー小説ばかりを読んで怪しい知識を色々と身につけました。そして高校時代には『そして誰もいなくなった』で有名なアガサ・クリスティーや、『犬神家の一族』でお馴染みの金田一耕助シリーズを書いた横溝正史さんの本を読み漁り、怪しい知識に磨きをかけてという…。



その後大人になり、皆さんご存じの今の体型へ。食べ物に関する好き嫌いもなくなり、何でも喜んで食べる雑食岩橋へと成長しました。読書においても多種多様なジャンルを読むようになり、今では哲学書やビジネス本、ハートフルな物語から歴史上の人物の伝記まで、色々と手を出しています。社会人になってから読んだ本の中で特に印象深いのは、東野圭吾さんの『ナミヤ雑貨店の奇蹟』や福島文二郎さんの『9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方』、『スティーブ・ジョブズ』といった面々です。どれも色々考えさせられる本で、読んでただ終わりで

はなくその後の自分の考え方にも良い影響を及ぼしてくれる本は記憶に残りますね。



あと最近では宮部みゆきさんの『ソロモンの偽証』や池井戸潤さんの『オレたちバブル入行組』など、映画化・ドラマ化された本を読むことも多いです。



読書の楽しさ・魅力とは

岩橋が読書をする時に大事にしたいものは、大きく分けて二つあります。一つ目は、「読み終わる前のもどかしさ・読んだあとの余韻」です。(一つ目って言いながら二つ挙げているというツッコミはご遠慮願います) 皆さんは時間を忘れるほど夢中になって本を読んで、「先の結末が早く知りたい」と強く願いながらも、「まだ物語が終わって欲しくない」というもどかしさを感じたことはありませんか？一見矛盾しているような感情ですが、このもどかしさがたまりません。同様に、読み終わった後「終わってしまった…もっと続きが読みたかった」という余韻が残るのも心地良い。岩橋にとってこういう風に思わせてくれる本は傑作なのです。当然本の内容も楽しみにしてはいますが、僕はこのもどかしさ・余韻を味わう為に読書をしていると言っても過言ではないかもしれませんねー。

そして二つ目は、「様々な世界・考え方を知ること」です。少し抽象的な言葉になってしまいましたが、僕達の世界は、自分の周りにある一つの世界だけですよね。そして自分には頭が一つしかありませんから、自分自身の考え方というのも多様性を持ちにくいものです。残念ながら、人間には別世界に飛んでいくことの出来る力はありません。そして一つの脳の力だけで自分の考え方を改善することも容易ではありません。ですが、本の中にはそれぞれの世界があり、それぞれの作者の考え方が広がっています。活字を追うだけで気楽に別世界を覗き、色々な考えを知ることが出来るんです。英雄が活躍する世界や、涙を誘われる世界、心が温くなる世界や恐ろしい世界。人間の目では認識出来ないような小さな世界や、僕達が生涯訪れることのない国の風景だって、言ってみれば別世界ですよ。

もちろんその中には自分に合わない世界や、触れると色々考えさせられてしまうような世界もあります。しかし良きも悪きも、様々な世界との出会いがあるのも面白いです。一つの世界しか知らない人間と、色々な世界を知り、色々な考え方や物の見方を手に入れた人間、皆さんはどちらになりたいですか？

